

# 院内BLS+AED 講習会開催の 意義と受講実績

○川口久美1) 宮谷理恵1) 越智元郎2) 坂本耕一2)  
長壁常司3)  
愛媛県市立八幡浜総合病院看護部・救急部1) 同救急部2)  
八幡浜地区施設事務組合消防本部3)

## 背景と目的

当院救急部では、地元消防本部の協力のもとに  
BLS+AED講習会、ICLS講習会を開催した。

厚生労働省の方針では、「**医師・救急救命士以外の  
医療従事者が自動体外式除細動器(AED)を使用する  
には、事前講習を受けている必要がある。**」

(平成18年厚生労働省通達0701001号)

当院職員が、院内外でAEDを使用できる態勢を  
整えるために、院内で講習会を計画し実施した。

## 方法

平成20年3月から現在まで、

- **BLS+AED講習会**（シミュレーション訓練を含む3時間講習）を同内容で年に2回、合計10回開催。
- **ICLS講習会**（日本救急医学会認定の8時間講習）を年に1回、合計5回、開催した。

今回、当院にて**合計10回**開催した、**BLS+AED講習会**の受講者総数**327人**の受講状況とアンケート結果について分析した。

## 受講者と指導スタッフ

### ●受講者

院内・院外から受講者を募集。

募集対象は、**医師・看護師・看護助手・理学療法士・放射線技師・栄養士**など、病院内で患者と接する機会のある職員は、すべて受講可能。

### ●指導者スタッフ

院内・院外から募集。

1班に原則 受講者6人。5～6班に分かれ、指導。

**日本救急医学会認定インストラクター**と、指導経験がある院内スタッフと救急救命士など指導を担当。

## 講習会の目的

①定期的に開催する院内講習を通じて、希望する職員全員が、医療従事者に求められる「BLS+AED」講習会を受講できるようにする。

②開催意義を理解し、当院職員の**緊急対応能力を高める。**

③地域の医療機関の職員の**心肺蘇生法に関するレベルアップ。**

## 講習会の内容

**3時間の講習会**は、3部構成からなる。

### 第1部

急変時の意識・呼吸・脈の確認。  
胸骨圧迫。圧迫の速さ・深さ・位置・リコイル。  
安全なAED使用方法の指導。

### 第2部

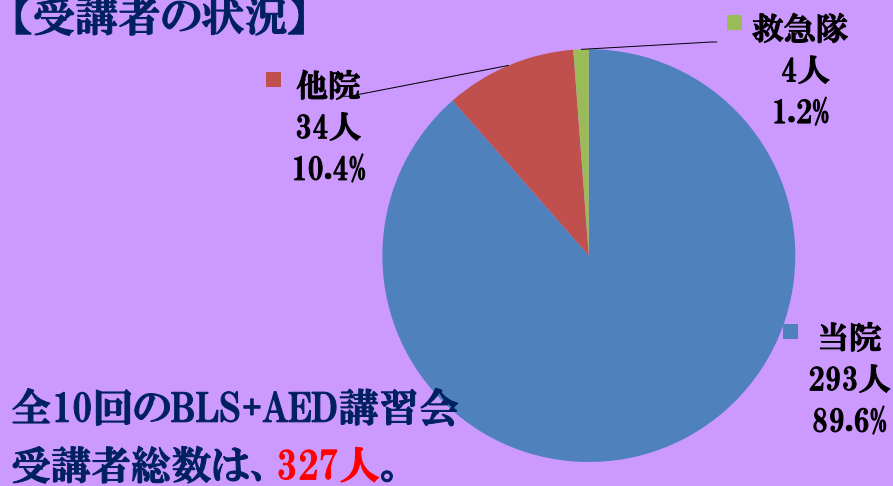
気道確保や換気の方法。  
背板挿入・胸骨圧迫交代の目的と要領。  
デモンストレーションを交えながら、実技指導。

### 第3部

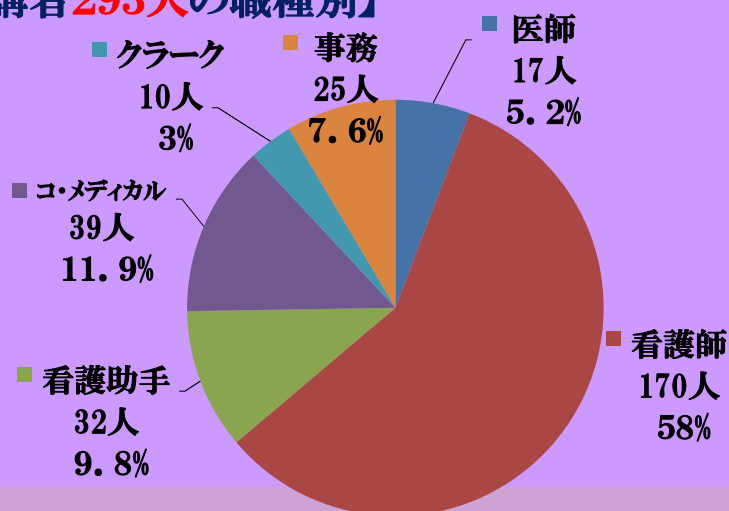
患者の状況を設定し、受講者には役割を交代しながらチーム蘇生を実施してもらう。  
特殊な設定を加えた、シミュレーション講習。

## 結果

### 【受講者の状況】



### 【院内受講者293人の職種別】



### 【平成25年3月1日現在の状況】

●医師を除く常勤・非常勤職員（委託を除く）**292人**。

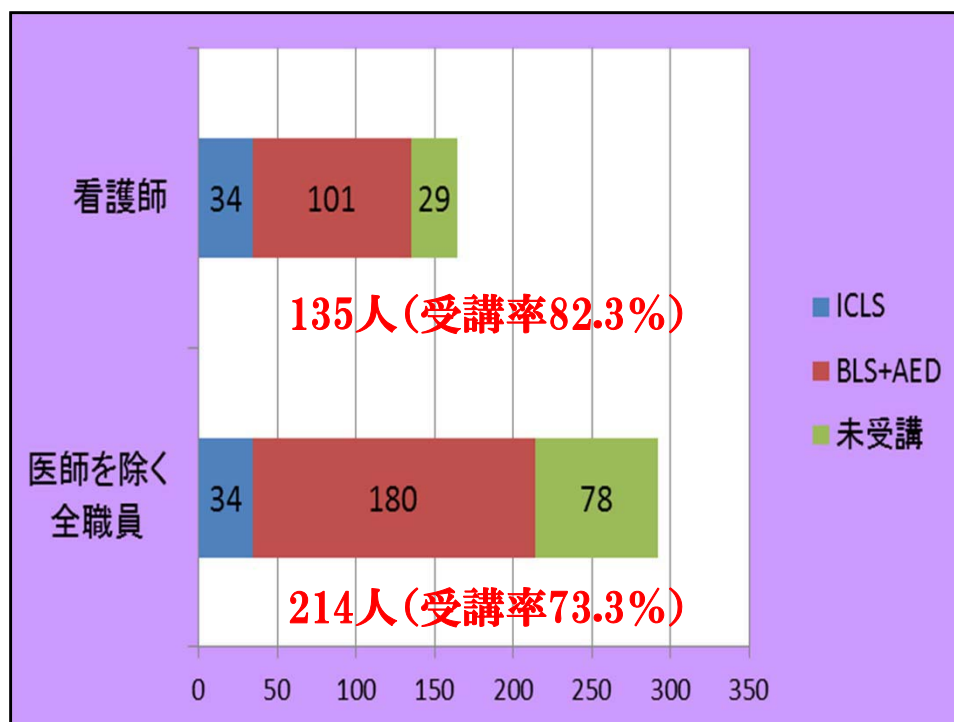
うち**214人（73.3%）**がBLS+AED講習会を受講。

**34人（11.6%すべて看護師）**は、ICLSを受講。

●看護師 総数**164人**。

うち**135人（82.3%）**がBLS+AED講習会を受講。

**34人（20.7%）**がICLS講習会を受講。



### ●その他の職種

看護助手 33人中**21人(63.6%)**

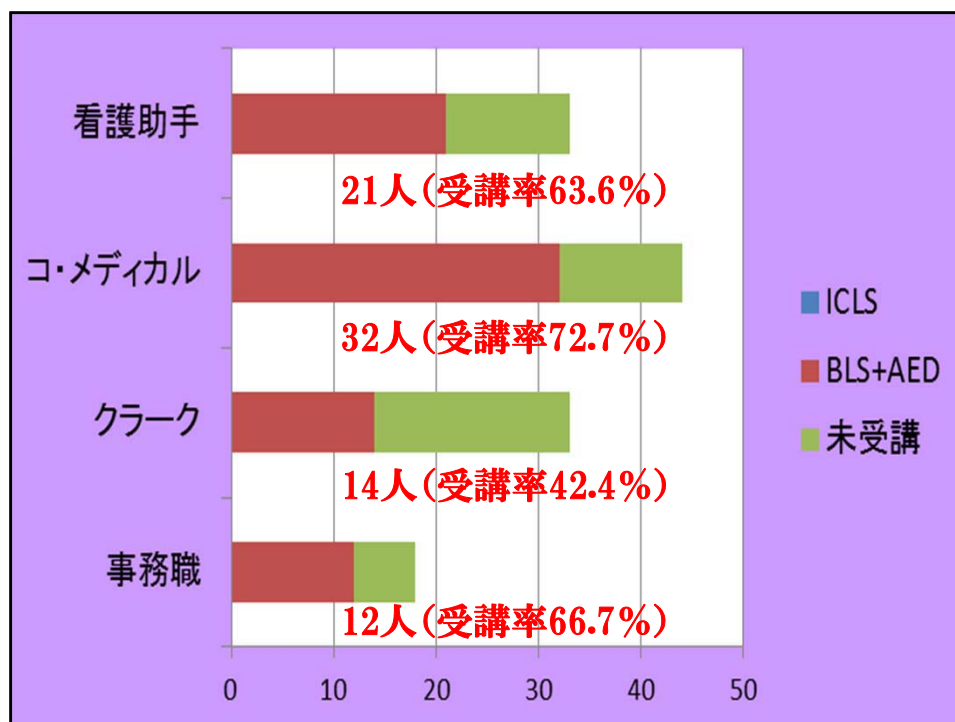
コ・メディカル 44人中**32人(72.7%)**

\*理学療法士・放射線技師・栄養士など

クレーク 33人中**14人(42.4%)**

事務職 18人中**12人(66.7%)**

BLS+AED講習会を受講済みである。



## 受講者アンケートの結果

### 【平成24年5月(第9回)】

1. 講習会は有益でしたか？				
全く有益でなかった	あまり有益でなかった	どちらでもない	どちらかといえば有益	非常に有益
0	0	0	0	21
2. 講習内容はよく理解できましたか？				
ほとんど理解できず	あまり理解できず	どちらでもない	まずまず理解できた	ほとんど理解できた
0	0	0	12	9
3. 今回の講習プログラムや器材は？				
非常にまずい	どちらかと言えばまずい	どちらでもない	どちらかと言えば優れていた	非常に優れていた
0	0	0	5	16
4. 指導者の指導技術、態度などは？				
非常にまずい	どちらかと言えばまずい	どちらでもない	どちらかと言えば優れていた	非常に優れていた
0	0	0	1	21

## 受講者アンケートの結果

### 【受講者からの感想・ご意見】

「受講して自信がついた」

「AEDの使用方法が分かった」

「実際の職場での急変時に役にたった」

「受講して初心に戻れた。実際に器材を使用して実施できて、分かりやすかった。」

「分かっているけど、本番では、動けなくなる不安があったので、講習会を受講して、自信がついた。」

「講習会が楽しい。グループとしての大切さも学ぶ良い機会になった。」

## 考察

5年間の講習会を通じて、多数の職員が、講習会を受講し、**73.3%の非医師職員(看護師は11.6%)がAEDを使用できる状況**となっている。

アンケートの結果や、受講後のスタッフから、急変時など**緊急時の対応に関する不安**を感じていることが、わかった。

受講後、急変に遭遇したスタッフもあり、受講により、**AED使用と緊急対応能力の向上**に、つなげることができたのではないかと考える。

## 結語

当院で実施した5年間の心肺蘇生法講習会の成果についてまとめた。多数の職員が受講し、70%以上の非医師職員がAEDを使用できる状況となった。

受講率を80%へ、さらに90%以上へと上げることができるよう、定期的に講習会を開催し、今後も魅力的な講習会を計画して行きたい。